留学を終えて

聖マリア女学院高等学校　浅野　結花（カナダ）

私は、カナダのブリティッシュコロンビア州にあるチリワックという自然が多い街に留学しました。

まず初めに、私が留学を決断したのは、海外と日本の文化や習慣の違いを身を持って体験したいという思いがあったからです。小学校高学年の頃から、よくディズニーの番組などを見ていたこともあって、元々海外の文化に興味がありました。又、文化や習慣の違いを番組やＳＮＳを通してみていると、「私もいつか自分で体験したい」と思うようになりました。そんな時学校で留学説明会がありました。友達にさそってもらい、母と一緒に参加しました。初めは、私には関係ないと思って聞いていたけれど聞いている間に「楽しそう」、「私も高校留学をしてみたい」と思うようになりました。説明会に参加した日に両親に私も高校留学をしたいと相談しました。最初は、両親とも反対していて、家族にプレゼンをしたり、時には意見がぶつかり合うこともありましたが、説明会から約一年ほどたってやっと両親ともの承諾を得ることができました。

ついにカナダに行く日がやってきて、やっと留学できるというわくわく感と、これからの自分が大丈夫なのかという不安もありました。１週間ほどたって学校が始まるとすぐに自分の英語のできなさに絶望し、留学に来る前にもっと勉強しておくべきだったと、とても悔しい思いをしました。わたしは頑張って話しているつもりでしたが、相手には全くと言っていいほど伝わってないことはよくありました。後に友達に私の英語がどうだったかを聞くと、「何となく言いたいことはわかってたけれど、それでもよくわからなくて適当相槌をしていた」と教えてもらいました。そのせいで、たくさんの友達もできることなく、休日はファミリーとシスターのバスケットボールの試合を見に行ったりしてずっと一緒にいました。セメスター１が終わりセメスター２が始まると私の留学生生活は１８０度変わりました。たくさんの友達ができ、休日は土、日両方とも遊びに出かけるという忙しいけれど楽しい生活を送っていました。英語が全く話せなくて悔しかった時の気持ちを糧に、毎日コツコツと英語の勉強をしていたのでその成果が出てきたのではないかと思いました。友達と話せるようになったといってもまだまだ流暢には話せていなかったので、何度も悩むこともありましたが、勉強続けていました。ある日から、突然何人かの友達が「結花って英語上手になったよね。」と言ってくれてその時には今まで勉強を頑張ってよかったなと泣きそうになりました。

学校の授業は、セメスター１では、key boarding、ESL(English for Second Language)、broad cast media、そして first nation in BC の４科目をとっていました。どれも大変な授業でしたが、key boarding の授業では、タイピングがとても速くなったし聞いたことのない単語もたくさん打たなければいけなかったので英単語も覚えることもできまし

た。First nation in BC の授業はみんなが基礎知識のある状態からスタートしていたので特に大変でした。ですが、勇気を出して隣の子に聞いてみたりして最終評価では良い結果を出すことができました。また、broad cast media の授業は、私の将来の夢を変えてしまうほど楽しくて驚きの連続だった授業でした。そしてセメスター2 では、culinary arts, psychology, soccer, volleyball をとっていました。セメスター 1 と比べて楽な授業も多かったですが、セメスター 2 では、脳の部位や、アドレナリンやセラトニンなどの成分の勉強をしました。また、日本語でもなにかも分からない精神病名も学んでいたので、psychology が一番難しかったです。

ホストファミリーとは、とてもいい関係性を築けていたと思います。留学が終わった今でも、初めてホストファミリーとあった時のことを覚えています。ファミリーが私を見つけてすぐ私にハグをして、笑顔で welcome to Canada! と言ってくれたのがとてもうれしかったです。カナダについてから学校が始まるまで 5 日ほどあったのでファミリーがバンクーバーや manning park という山に連れて行ってくれたりしました。また、私がカナダについて 2 日後にマザーの友達家族がロンドンから遊びに来ていていました。それから約 1 週間は家の中で、タイ英語のアクセントとイギリス英語のアクセント、そしてタイ語が一つの家の中でとびかっていて衝撃的なカナダ留学のはじまりでした。先ほどにもあったように初めのほうはあまり友達がいなかったので、休日のほとんどはホストシスターのバスケの試合を見に行っていました。それもあってとても仲良くできていたと思うし、ホストファミリー自身も私をホストしてよかった、私がいなくなるのが悲しいと言ってくれたり、だんだん帰国が近づいてくるとホストマザーとシスターが泣いてしまうということもありました。しかし、ずっと楽しい思い出というわけでもなく、やはり赤の他人が家にいることにお互いが遠慮してしまったり、ハウスルーに耐えられないと思った時期もありました。ですが、10 か月という長い期間を一緒に過ごしたので、帰国した今でもスマホ上ではあるけれど、たくさん話しています。

この留学は、私に英語力以外にも、いろいろな人との接し方、自分自身を理解することなどたくさんのことを教えてくれました。私は、10 か月という長期留学をして私が留学に行けたのも、留学先で頑張ってこれたのも周りの人の応援と協力があってのことなのだなと身をもって感じました。留学にかかった費用はとても莫大な金額だったと思うし、それ以外にも私の精神面の支えをしてくれた家族と現地の友達にとても感謝しています。また、この留学を通して経験したことや学んだこと、そして世界中にできたたくさんの友達をこれからも大事にしていきたいと思います。支援してくださってありがとうございました。

2024

formation
Welcome to Canada.
Asano Yuika!